

令和3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470500677	事業の開始年月日	平成15年2月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	大信産業株式会社		
事業所名	グループホームみのり		
所在地	(〒232-0042) 横浜市南区堀ノ内町2丁目136番地の3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和4年3月1日	評価結果 市町村受理日	令和4年6月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>新規の利用者様が多く、自立の利用者様が増えた。尊厳を大切にし、その人らしさを引き出し、一人ひとりに合わせたケアに努めている。 医療機関と連携を取り、24時間体制を確保し、早めの処置により重度化を防いでいる。 日常生活における機能訓練、残存能力の維持、日中にメリハリをつけ、生活のリズムを整えている。 食事に関しては、その人に合わせた食事形態、味付けを工夫している。 利用者様の意見をもとに、食事のレクを増やして楽しんで頂けるようにしている。 終末期を住み慣れた、みのりで迎えたいと希望される本人、ご家族に対しては医師や看護師との協力のもとに看取り介護を支援している。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和4年4月11日	評価機関 評価決定日	令和4年6月4日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 グループホームみのりは、横浜市営地下鉄ブルーライン蒔田駅から徒歩8分の住宅地にある1ユニットのグループホームである。3階建ての1階と3階に居室があり、2階には、リビング、食堂、キッチン等がある。利用者はエレベーターを使い各階を自由に行き来している。また、1階、3階にはホールがありソファが設置されており、利用者がリビング以外でも寛げるようになっている。</p> <p>【スタッフ全員で目指す年間目標】 事業所の年間目標を「利用者一人ひとりに合わせたケアを念頭に置きチームケアを行う」としている。この目標の達成に向けて、職員は、利用者の入居時のアセスメントのみならず日々の様子を詳しく観察することで、利用者の思いや行動パターンを把握し、利用者にとって最適なケアを行うように心掛けている。職員は、ケアに関し疑問点があれば管理者や計画作成担当者に相談するようにしている。また、管理者や計画作成担当者が職員のケアを見て不安を感じた場合には、「ケアノート」に対象となったケアについて、どのようなケアが利用者にとって相応しいのか、また、何故かという理由を時には図解も入れて解説している。 利用者に関する情報は「申し送りノート」でも共有するようにし、漏れのないようにしている。この一連の流れにより、職員は利用者毎のケアを理解するとともに、ケアそのものの奥深さを感じることで、ケアへの探求心も芽生え、成長している。</p> <p>【食事レクリエーションの充実】 コロナ禍のため外出行事を全て中止としている。その代替として「食事レクリエーション」を充実させることとし、「好きなものランチ」を実施した。利用者一人ひとりに食べたい好きなものを聞いて、それらを職員が用意した。うな重や寿司など利用者自身が選んだ好物を食べて、楽しんでいる。また、おやつも、利用者を作る喜びや達成感を味わってもらいたいと考え、利用者にパンケーキを焼いてもらい、餡子を挟み「ドラ焼き」を作ってもらった。利用者は普段とは違う自作の「ドラ焼き」をじっくりと味わった。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみのり
ユニット名	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開始時からある理念をもとに新たにポリシーとして理念を出し共有している。	3項目からなる法人の運営方針を事業所理念としているが、昨年、新たな項目が加わり4項目の理念となった。項目を追加した際には、法人役員が職員一人ひとりと面談し、その意味するところを伝えて理解を促している。管理者は全体会議内でミニカンファレンスをしている時に理念にある「自立支援」、「本人本位のケア」、「尊厳の保持」について話すことが多く、職員は十分に内容を理解し、理念に基づいたケアをするように常に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者に関してはコロナ感染予防のため必要最低限の外出しかできておらず、職員は近隣住民への挨拶は行っている。	堀之内町内会に加入している。コロナ禍で町内会行事は中止となっているが、町内会長が時々事業所を訪問してくれている。その際には、近況報告を行っている。散歩の際には、近隣住民と挨拶を交わし、地域との関係を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年に入り一度開催した。現在はコロナ流行により書面で報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の状況を詳しく報告し、地域の活動の参加やボランティア活動などをつかえるかを進めている。	コロナ禍がやや鎮静化した昨年12月に集合形式にて開催している。出席者は地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、計画作成担当者、法人職員となっている。その際に、事業所に動物の好きな利用者がいて「犬と一緒に散歩が出来ないか？」と話をしたところ、出席者より調整可能との話があった。その後、新型コロナウイルスによる新規感染者が増加傾向となったため、実現していないが、いつでも犬との散歩が出来る状況にある。12月以外は書面及び電話にて事業所の状況を従来の出席者に伝えている。	

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密ではないが相談があるときは電話相談等でおこなっている。	入居後、生活保護受給者に切り替わった利用者に関する相談を生活支援課と行ったり、高齢・障害支援課より入居受け入れの相談があるなど連携を取っている。市からは新型コロナ対策として抗原検査キットの支給を受けている。研修の案内もあるが、法人方針でコロナ禍での外部研修を原則禁止しているので参加していない。運営推進会議の報告書は高齢・障害支援課に郵送している。	
---	---	--	------------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止法で示されている行為や、それをもとに事業所内で身体的拘束適正化委員会を作り会議で話あっている。	「身体的拘束適正化に関する方針」があり、身体的拘束適正化委員会を3か月に1度行っている。また、研修も昨年は3回実施している。転倒リスクが高く、代替法が無い利用者に対して4点柵を2日間だけ設置したことがあったが、その際は家族と「身体的拘束に関する説明・同意書」を取り交わし了承を得ている。また、委員会でも3要件の確認や振り返りをして詳細に検討している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の際に勉強会で職員同士で共有している。	虐待の防止に関しては、身体的拘束適正化委員会の中で不適切なケアについての話し合いを持ち、研修も身体拘束に関する研修と合わせて実施している。利用者が不穏時には思わず職員も感情的になりがちで不適切なケアに陥りやすい。そのような場合には精神統一を行い、アンガーマネジメントを心掛けて利用者 と接するようにと管理者と計画作成担当者は指導している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人を利用している利用者がいて、現在の状況や、緊急時の対応などの話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得できるように、わかりやすく、不安を残さないように話し合いをして、より良いコミュニケーションが取れるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には現在の状況を細かく伝え、ご家族からの意見も聞くように常日頃から努めている。	コロナ禍の影響により面会を実施したり中止したりする状況にある（現在は中止）。家族には管理者が定期的に電話で利用者の状況を伝え、その際に意見や要望を聞いている。また、計画作成担当者がケアプランを送付する際には利用者の写真を同封するようにしている。家族からは、利用者には何か欲しいものはないか要望を聞いてもらいたいといった話が多く、事業所への意見等は特にない。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りや業務の間に意見交換の時間を作り、さらに会議でその内容を深くほりさげ、その提案をサービスに繋げている。	全職員が出席する全体会議にて皆で意見交換を行っている。会議以外では「申し送りノート」に気付いたことを記入するようにもしている。今年度は、事故発生を未然に防ぐための策として「ヒヤリハットノート」を作成するという提案があった。どのようなケアをすれば事故につながらないかを職員が書き込み、共有するとともにケアの参考に活用している。また、3階建てのために利用者が3か所に分散することがある。休憩時間の取り方次第で職員の見守り体制が十分ではない時間帯が生じるとの意見があり、休憩時間を変更するとともに、家族に説明し、了解を得て、離床センサーを設置したという事例もある。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者は個々の職員と面談している。キャリアアップの目標等を整えている。	管理者は職員と年に2回、賞与支給前月に面談を行い、目標設定やフィードバックを実施している。今年度からパート職員も人事考課対象とし、賞与支給も実施されている。認知症介護リーダー研修や認知症介護実践者研修の費用は交通費も含め法人負担となっている。介護福祉士等の受験に際しての支援はないが、資格取得後は資格手当が支給される。キャリアパス要件も整備され、職員はどのようなスキルを取得すれば上位級となれるかが明示されている。全体会議は、全員出席を基本としており、休日に当たる職員に対しては残業代が支給される仕組みとなっている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの意見に耳を傾け、できない部分はチームで協力するように会議で話し合い、介助方法なども、個別指導している。	研修は年間研修計画を組み、毎月、必須とされるケアに関して管理者や計画作成担当者が講師となり実施している。計画作成担当者が市の指導員の立場であり、職員にとっては最高の教師が身近にいて常に学べる環境にある。また、管理者は職員それぞれの強みを大切に考え、職員の得意分野を事業所運営に発揮してもらうように心掛けている。デイサービス勤務の経験のある職員にはイベント、レクリエーションで力を発揮してもらい、記録をつけたり、雑務をこなすのに長けた職員には発注業務などを担当してもらっている。	

14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在コロナ流行によりおこなっていない。		
----	--	---------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や、ご家族と疑問や不安が残らないように時間をかけ話を聞く、生活歴、本人がしたい事、家族の要望など		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今、一番、困っていること、グループホームでどんな生活を望んでいるかを重点におき、これからのことについて話あっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	24時間シートを活用し、本人が困っている事、不安な事等を傾聴し、ケアにつながる情報の共有をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力にあわせ、日常生活の中で、職員を手伝ってもらう機会を増やし、感謝の気持ちをしっかりと伝え、一方的な関係にはならず自分も役割があるとおもってもらえる支援をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の要望や意見を聞き入れ面会は中止にしているが電話で話したり必要な通院等の援助を家族とともに考え協力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、面会は中止とし、電話対応のみ行っているがターミナルの利用者のみ、居室での面会は行っている。	面会が出来ない時期でも、日用品を持参した家族に利用者が2階ベランダから顔を見せ、手を振りながら携帯電話を使って話をする事がある。友人、知人からの手紙や電話の取次ぎを支援している。馴染みの美容師に事業所まで来てもらっている方がいるが、今度、久しぶりに美容室の休日を利用して店で整髪してもらうことになっている。朝食には必ずパンにはちみつをつける、湯剥きトマトを食べるといった食習慣を続ける方、絵を描くことや好きなCDをかけて職員と一緒に体を動かすとといった趣味を楽しんでいる方がいる。事業所近くの店舗に散歩がてら花やお菓子等を買っていく方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考え、座席の配置も工夫し、利用者同士の会話に繋がるように職員が間に入り会話をしたり、何かを一緒に行うことでの達成感、楽しみができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも、近隣であってお話をしたり、相談を受けアドバイスもしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプランをはじめ、本人の意向は申し送りの際、職員での共有をし、可能な限り行う。行えない場合は妥協点を本人と話し合い納得できる答えを探している	「家に帰りたい」と言う利用者には、事業所の生活が嫌で家に帰りたいのか、家に気になることがあり、それを確認出来れば事業所に戻るつもりなのか、本人の気持ちを推し量る様にアセスメントを行い、「コロナ禍で今は行けない」と対応することもあれば、じっくり話を聞くために一緒に散歩に出掛けることで気分を変えてもらうこともある。発語が困難な利用者はいるが、職員が選択肢を色々と示すとサインを出してくれるので思いの把握は出来ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の情報を、本人、家族から聞き、本人らしさを引き出せるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもと違う、に気づけるように普段からの観察を行い、心身ともにも変化があれば話を聞いて職員間で共有している。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、ご家族の意見をケアプランにしているが、その効果を実際にあるのか、会議で話し合いをして見直しをしている。	まず全体状況アセスメントを実施し、ケアプランを作成する。毎日の「支援記録表」にケアプランに記載している「課題」、短期目標に連動している「チェック内容」が記載してあり、提供したサービス内容（チェック内容）が実施された場合は記録表にその番号を記載するようにしている。モニタリングは計画作成担当者が毎月実施し、基本的に短期目標に合わせ3か月でケアプランの見直しを実施している。居室担当制とせず全職員で全利用者をケアしており、モニタリングと同時期に職員に「評価表」を作成してもらいケアプランの実施状況を把握する勉強をさせることもある。	

27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録に簡略化されたケアプランをのせており、日々の記録のほかにケアプランの内容に沿った事をしたときは番号をつけ、ケアプランの内容を分かりやすくしており、さらにモニタリングしやすいようにしている。</p>		
----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、本人、ご家族と相談したうえで、同一事業所管の移動も含め話し合い、医師、訪問看護とも連携している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の神社に定期的にお参りにいく。 地域のヘアーサロンの方にカットにきてもらい、昔から通っているヘアーサロンへ行くこともある。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望する医療機関にタクシーの手配など協力している。また受診の際に毎月のバイタル、食事量などの提出し、医師とは直接電話でやり取りする事もある。	内科に関しては、事業所の協力医の訪問診療を受診する利用者とかかりつけ医の訪問診療を継続している利用者がある。訪問は月に2回の頻度となっている。歯科医に関しては、契約制で治療等必要時に来所する。外部医療機関の受診は家族対応で報告内容を「医療ノート」に記載し、職員間で共有している。外部医療機関受診の際には、計画作成担当者が利用者の状況を詳細に説明した文書を用意して家族に渡し、医療機関へ情報提供を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週に一度の健康チェックを行い24時間体制で相談、対応できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先、かかりつけ医、往診医、連絡相談を行い、帰設後の対応方法を検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の指針の説明、過ごし方の希望を聞き、それをもとに、終末期になったときに、ご家族、医師、看護師、職員、ケアマネで話し合い支援している。	入居時に「看取り介護についての同意書」と「看取り介護についての意向確認書」の内容を説明し、事業所として終末期を迎えた際に出来る事、出来ない事を明確に伝えている。医師が終末期と判断した時点で、前述書類を家族と交わすことにしている。研修は毎年実施しており、今年度も3例の看取りがあった。管理者は、職員には最後まで一緒に過ごし、お見送り出来たことはとても素晴らしいことと教えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のフローチャートを元に、職員誰もが緊急時に備えるようにし、実際に搬送ができるようにしている。			
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練で、避難方法を周知している。 コロナ流行により外部の避難訓練参加ができていない。	昨年11月に夜間想定避難訓練を職員1名体制にて実施し、利用者も避難訓練に参加している。構造上の問題で、階段利用時の開錠の手間や普段エレベーターを利用していることから階段昇降で息切れする利用者がいたなどの課題が明らかとなった。また、火元の特定の重要性も再認識された。備蓄に関しては、水、アルファ米、食料品が利用者、職員合わせ3日分は確保されている。また、カセットコンロ等も用意されている。	夜間想定での避難訓練でもいくつかの課題がありました。今後は日中想定での訓練も行い、新たな課題の抽出や夜間時の課題解決を試して、より安全が確保されることを期待します。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を大切にしている。入浴時、必要に応じ同性介助を行う。排泄時の声掛けの仕方等に気を付け配慮のある介助を心がけている。	利用者一人ひとりのアセスメントをしっかりと実施することが尊厳を守ることだと管理者及び計画作成担当者は指導している。排泄の声掛けでも、どのようなタイミングに声掛けすると利用者が応じてくれるのかを把握することで、無理強いすることがなくなる。介護者側の思いを押し付けるのではなく、十分なアセスメントが利用者本位のケアにつながることを教えている。記録を付ける際には利用者から離れた場所で行うようにしている。個人情報を含む書類は施錠出来るキャビネットで保管し、データ管理はパソコンの使用を管理者に限定し、更にパスワードで管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細なことでも自己決定の場を増やし、普段から考えられる環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせたケアに努め、何をしたいかを理解できるように寄り添い、希望を聞くようしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアで整え、食べこぼし、汚れた服になっていないか身だしなみに気をつけている。		

40	18	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食器は使い慣れたものを家庭からお持ちいただき、利用者の何が食べたいに耳を傾け、食事おレクを増やしている。食事準備、片づけなど一緒に行っている。</p>	<p>三食とも配食業者から届く材料を調理し、提供している。朝食は職員が作り、家事の得意な利用者が手伝ってくれている。昼食、夕食は調理専門職員が対応している。計画作成担当者が検食を行っている。行事食は職員と調理専門職員とで話し合い利用者に好まれそうなメニューを考えて用意している。誕生日は主賓の好きなケーキや食べ物、飲み物を用意してみんなでお祝いしている。各利用者の好みのメニューを用意する「好きなものランチ」は利用者に大好評で、「次はいつ？」との声が挙がっている。</p>	
----	----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックし摂取量が少ない時は声掛けでうながし、嚥下状態に低下の方にはトロミ、刻みなどで提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のケアの中で、一部介助でおこない、必要な利用者には訪問歯科を利用している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄は必ず促し立位が取れない方でも二人介助で本人の無理のない範囲で行っている。	排泄チェック表にてパターンを把握して声掛けしているが無理強いはしていない。トイレに自分で行ける利用者は昼夜問わず布パンツで過ごしている。他の利用者もリハビリパンツで過ごし、夜間のみ、パッドの大きさを変えたり、本人の希望でオムツを着用するなど個々の対応となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないようにチェックし、摂取して頂く。それでも困難な場合は医師と相談し下剤の調整を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回～3回の入浴を行い、その日の気分や体調で変更している。 入浴剤など使用でリラックス効果もある。	入浴は週に2～3回とし、チェック表で入浴状況を確認しながら当日の入浴者を決めている。時間帯は基本的に午前としているが、午後になることもある。同性介助にも対応している。入浴を好まない方には声掛けの仕方やタイミングを工夫して促しているが、決して無理強いはしない。皮膚疾患の利用者には毎日シャワー浴や足浴の対応もしている。家族が持参した入浴剤を入れて楽しんでいる利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息はその人に合わせている。 夜間は安眠が取れるように日中のリズムを考え、実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情での確認、変更時には申し送りで周知。 職員全員で確認。 服薬時は必ず二人で行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、食器拭き、掃除、洗濯たたみなど、できる事はやっ ていただいている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ流行により中止になっているが定期的な散歩は実施している、	コロナ禍のため外出行事は中止としているが、出来る範囲の外出は行っている。近くの神社にお参りする散歩コースがあり、車イスの利用者も出掛けている。近くの店舗に買い物に出掛ける利用者もいる。2階ベランダで日光浴を楽しむ事もある。今年度はドライブで花見に出掛けている。職員は新型コロナウイルスが落ち着いたら、利用者と回転寿司に行くことを計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方には自身で管理してもらい、家族が確認している。その他の方は金庫で管理している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に掛けて頂き、携帯を持っている方もいる。お手紙もホームに届いている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設ではなくアットホームな家庭的な空間、季節を感じることが出来る、その月の壁紙をフロアに飾っている。ベランダで草木、花を育て鑑賞している。	温湿度管理はエアコンと加湿器で行い空気清浄機も設置している。リビングの壁には、利用者の作った季節を感じさせる作品を一点だけ掲示するようにしている。ベランダのプランターで花を育てていて、水やりは利用者の役割となっている。掃除も利用者が掃除機をかけ、モップ掛けをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室又は共有空間にテーブル席を置き、プライベートな空間を過ごせるようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は馴染みのある家具当を居室に配置している。	事業所による備え付けは、エアコン、ベッド、クローゼット、カーテン、照明器具となっており、それ以外は全て利用者の好きなものを持ち込んでいる。趣味の絵やレクリエーションで魚釣りゲームをした際に釣った魚を飾っている利用者もいる。自室に貼ったスケジュール表に訪問マッサージの予定を書き込んでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室ドアには名前を貼り、自身のスケジュールがわかるように室内に貼っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームみのり

作成日 令和4年6月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	16	避難訓練に職員全員が参加できていない、地域の方の参加もできていない。消火訓練をしていない職員が多い。	職員全員が参加できるように、日中、夜間想定を行い、地震訓練も取り込んでいく。	消防署の方に消火訓練を含めた、避難訓練を行い、職員、利用者様、地域の方で行う。	6か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。